

花卉と生長調節剤

花卉の需要は相変わらずさかんで、消費も多様化してきた。花屋の店先が鉢物や花の苗で賑やかになってきたのは、家庭で花を楽しむ人のふえた証拠である。主力の切花も、けい古花(華道の)や仕事花(冠婚葬祭用)より店売り花(家庭用)が伸びているし、街や公園の花壇もさかんになった。

わが国の花の消費は、欧米と比べて量的には及ばないにしても、質的にはその水準に近づきつつある。端的に言えば、床の間を飾るいわば外向きの花が、居間の気分を和らげる生活の花に代わりつつある訳で、一日の疲れをいやし、明日への力を養う心の糧としての、花本来の役割が認められてきたからであり、過密化や公害の進む中で、今後ますますその重要性が認められるだろう。最近の花卉園芸の進歩には目を見はるものがあるが、とくに伸びの著しい鉢物にそれが見られる。鉢物にされる花卉の種類が著しくふえ、開花調節や植物体の「整形」技術も進んだ。これらの面で、生長調節剤の役割は大きく、ことに生長抑制剤のわい化作用は、多くの花卉の鉢物商品化を可能にしたが、サイトカイニンの不定芽促進作用は、さらに「整形」を高度のものにするだろう。

花芽形成を含む開花の調節は、種類ごとの開花生態が明らかにされるとともに急速に進展し、適当な環境条件との組合せで、生長調節剤が使われ、その著しい効果から、つぎつぎ実用化されるようになった。今後の調節剤の開発は、新しい利用場面をひらき、さらにあらたな花の需要を生むだろう。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
東京 農業 大 学 教 授 阿部定夫〕

目 次 (第12巻第1号)

東北地域におけるマルチ栽培の現状
と今後の方向…………… 2

＜東北農業試験場 工藤 純＞

1. 東北地域におけるマルチ栽培
の現状…………… 2
2. 東北地域における落花生マル
チ栽培の意義…………… 3
3. 東北地域とくに北東北におけ
る落花生マルチ栽培の現状と
問題点…………… 5
4. む す び…………… 7

田植機稲作の二、三の問題…………… 8

＜農事試験場 宮坂 昭＞

昭和52年度落葉果樹関係除草剤・生
育調節剤試験成績概要…………… 19

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

昭和52年度常緑果樹関係除草剤・生
育調節剤試験成績概要…………… 27

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

昭和52年度リンゴ関係除草剤・生育
調節剤試験成績概要…………… 33

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

DPA・MCP・DCMU 水和剤(休
耕田用)の判定結果について…………… 39

外国文献抄録…………… 40

新登録除草剤一覧表…………… 41

新登録生育調節剤一覧表…………… 44

表紙に用いた写真は、水稻の導管の表面を走
査電子顕微鏡で観察したものである。

(写真提供者; 高橋広治氏)